

決算 特別委員会

委員長 秋永 安次

令和元年度 一般会計歳入歳出決算

令和元年度の一般会計決算は、歳入決算額288億212万円、歳出決算額280億7898万円となり、歳入歳出差引額は7億2313万円で、翌年度へ繰り越すべき財源9704万円を控除した実質収支額は6億2609万円となりました。

歳入決算額を財源別にみると、自主財源が95億5361万円、歳入全体の33.1%、依存財源が192億4850万円、歳入全体の66.9%を占めています。前年度比は24億4433万円の減で7.8%の減少率となりました。その要因としては、市債等が減少したことによるものです。

歳出決算額の主な款別執行

額は、民生費80億727万円、総務費37億3361万円、公債費29億6515万円となりました。前年度比は22億8280万円の減で7.5%の減少率となりました。その要因としては、庁舎整備にかかる工事費や獣害防止柵整備事業費、新旭風車村リニューアル整備事業の完了による工事費の減少等によるものです。

決算審査に当たっては、予算執行の結果や行政効果を客観的に検証し、今後の予算編成や財政運営に活かされるよう審査を行いました。

採決の結果

議第98号は「可決および認定すべきもの」
その他8議案は「認定すべきもの」



本会議での討論

議第93号 令和元年度高島市一般会計歳入歳出決算の認定について

反対

森脇 徹議員

消費税増税で低所得者等へのプレミアム商品券3665万円も約5割の換金。環境センター後継処理施設整備事業6374万円で、検討委員会開催や生活環境影響調査費決算するが、用地取得議決案2度の否決で白紙撤回に至る。

賛成

磯部 亜希議員

行財政改革を進め、各種施策の優先順位などを勘案する中で、ハード面、ソフト面において合併特例事業債などを有効に活用し、ふるさと納税制度による自主財源も確保されながら事業を実施していることから賛成する。

議第98号 令和元年度高島市水道事業会計利益の処分および決算の認定について

反対

森脇 徹議員

消費税増税で軽減独自策がなかった。安曇川地区洗管事業で市会計から借入約2億円の返済1950万円が決算。大型ホテルが開業で上水大口収益等で返済できると議会も市民も認識だ。高額返済で不安定要素を増す決算だ。

賛成

石田 哲議員

第2次水道事業基本計画に基づき各種業務が実施され、適切に必要な課題に取り組まれたことが理解できる。今後も施設や管路の改修を計画的に行い、安全な水道水を供給し、安定した事業経営に期待し、賛成する。

健全化判断比率の状況

危険信号※

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	県内市町平均(H30)	早期健全化基準
実質赤字比率 (一般会計を中心とした赤字の割合)	赤字なし	赤字なし	赤字なし	赤字なし	赤字なし	12.67%
連結実質赤字比率 (全ての会計の赤字の割合)	赤字なし	赤字なし	赤字なし	赤字なし	赤字なし	17.67%
実質公債費比率 (年間の借金返済額の割合)	10.8%	10.5%	10.0%	9.3%	6.1%	25.0%
将来負担比率 (将来負担が見込まれる負債の割合)	54.2%	43.6%	31.1%	22.4%	5.0%	350.0%

◆健全化判断比率とは…自治体の財政状況を早期に把握し、破たんを防ぐことをねらいとして制定されたものです。
※この基準を超えると、財政再建のための計画をつくり、立て直しに取り組む必要があります。

歳入歳出決算状況

会計	年度	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	
一般会計	令和元年度	288億0212万	280億7898万	7億2314万	
特別会計	令和元年度	119億5017万	117億4985万	2億0032万	
事業会計 (収益的収支のみ記載)	水道	令和元年度	11億1862万	10億4236万	7626万
	下水道	令和元年度	26億6736万	26億3255万	3481万
	病院	令和元年度	50億4807万	51億2599万	△7792万
	介護老人保健施設(陽光の里)	令和元年度	4億7053万	4億7069万	△16万